

株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループの第57期上期（2021年4月1日から2021年9月30日まで）の営業状況をとりまとめましたので、ここにご報告申し上げます。

当期上期は、新型コロナウイルスの変異株の猛威による感染拡大により、緊急事態宣言が断続的に発令され、結果、個人消費の停滞や景気の足踏み状態が続き、依然として厳しい経営環境の中での事業活動を余儀なくされました。

そのような状況下ではございましたが、当社は、開局50周年を迎えた前期2020年度に定めたブランドプロミス“Life Time Audio 80.0”の具現化と継続的な編成改革に取り組み、その結果、2021年度上期に実施された3回の首都圏ラジオ合同聴取率調査においてコアターゲット層「男女18～49歳」でトップを2回獲得する等、2020年度来の好調を維持し続けております。また、営業活動においても、好調な聴取率を背景として、後述する音声コンテンツプラットフォーム「AuDee（オーディー）」を活用した新たな商品開発及び営業戦略並びに当社の放送事業の基盤でもあるJFN38局という全国ネットワークのスケールパワーが奏功し、特にスポットでは、多彩な業種のクライアントの大型キャンペーンを毎月獲得する等、緩やかではございますが回復の兆しが見えて参りました。

一方、コロナ禍前から続く日本のラジオ広告市場の低減傾向の流れの中で、当社は、FM放送事業者から“オーディオコンテンツ事業者”への転換を経営方針としております。その成長戦略の中心として、強化・拡大を目指しているデジタルビジネスの分野では、2020年7月にリリースした「AuDee」が、コンテンツ数も700を超え、月間アクティブユーザー数（MAU）では2021年4月に160万を達成する等、順調に進捗しており、収益面でも「AuDee」単体のみならず、放送事業収入の拡大にも寄与する等、FM放送と並ぶ収益の柱となるべく成長を続けております。下期以降も、

「AuDee」での新たなサービス展開を計画しており、MAUの飛躍的な伸長と更なるビジネスの拡大に貢献できるものと期待しております。また、上期にはファンコミュニティ「LisCom」の開設や、Spotify社との提携等、新たな取り組みや他社との連携も強化して参りました。今後、ワクチン接種率向上による感染拡大防止措置緩和とこれを契機とした経済活動の本格的な正常化や個人消費の回復が期待されますが、当社においても、デジタルシフトを中心としたアフターコロナを見据えたニューノーマル下での新しい企業の在り方、事業展開を目的とした経営を今後も推し進めて参ります。

なお、引き続き当面はコロナ禍の不透明な環境下ではございますが、後記のとおり、当社定款第47条の規定に基づき、2021年11月25日開催の取締役会におきまして、当期の中間配当金を1株につき60円とし、支払開始日を12月7日とすることを決議いたしましたので併せてお知らせいたします。

株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2021年12月

代表取締役社長 黒坂 修

第57期中間報告書

(2021年4月1日から
2021年9月30日まで)

営業の概況

当中間連結会計期間においては、新型コロナウイルスの変異株が世界的に猛威を振るい、ワクチン普及による感染拡大防止措置の緩和が進んだ欧米先進国を除いては、社会活動への制約が継続し、世界経済回復ペースの鈍化をもたらしました。国内においても、断続的な緊急事態宣言等の発令に伴い、個人消費の停滞と景気の足踏み状態が続いております。

広告市場においては、新型コロナウイルスの影響による落ち込み幅が極めて大きかった前期上期との対比では全般的に回復傾向が見られました。経済産業省特定サービス産業動態統計調査（広告業、2021年4月～9月期）によると、特にテレビ広告市場はオリンピック・パラリンピック効果もあり、前年同期比22%増で増収基調となりましたが、ラジオ広告市場は未だ回復途上にあり、前年同期比2.1%減に留まりました。

このような状況下、当社グループにおいては、主力の「放送事業収入」が前期下期からの回復傾向を維持し、特に「スポット放送収入」が大型キャンペーン広告の受注獲得等により好調に推移し、前年同期比7.8%の増収となりました。さらに、「タイム放送収入」も回復の兆しを見せ、結果、主力の「放送事業収入」全体で前期上期実績を上回りました。一方、「企画・制作事業収入」は依然としてコロナ禍の影響を受けており、音楽コンサート等の興行が制約される状況が続きましたが、WEB配信によるイベント企画の実施や、演劇等の舞台公演への参画等の施策により、前年同期との比較では売上が改善しました。しかし、後述のとおり、連結子会社ジグノシステムジャパン(株)が運営する「インフォメーションプロバイダー事業収入」が減収となったほか、前年度中の賃貸用不動産売却の影響による賃貸料収入減少により「その他の事業収入」も大きく落ち込みました。

この結果、当中間連結会計期間における連結売上高は67億3千1百万円（前年同期比5.8%減）となりましたが、主力の「放送事業収入」の増収が利益の底上げに貢献し、営業利益は4億2千7百万円（前年同期比40.7%増）、経常利益は5億6千6百万円（前年同期比34.0%増）と、いずれも増益を達成いたしました。なお、親会社株主に帰属する中間純利益は4億8百万円を計上いたしました。前年同期は前述の賃貸用不動産売却等によって生じた特別利益が最終利益に加算されている関係で、前年同期比では75.0%の減少となっております。

当社単体の業績については、売上高が51億5千4百万円（前年同期比3.1%増）、営業利益が2億9千2百万円（前年同期比70.8%増）、経常利益が4億7千5百万円（前年同期比0.2%増）、中間純利益は3億6千2百万円（前年同期比78.5%減）となりました。

連結事業セグメント別の営業状況は以下の通りです。

<放送事業活動>

当社では、開局50周年の節目を迎えた前年4月において、放送活動におけるブランドプロミス（編成指針）“Life Time Audio 80.0”を掲げており、「伝わる言葉と心に届く音楽で、生活者の日々を豊かにするオーディオコンテンツを発信しながら、生活者の人生に寄り添い、生活者と共に心豊かな物語を紡いでいく存在でありたい」との理念の実現を目指し、当期4月の番組改編を実施いたしました。

朝の情報番組『ONE MORNING』（月～金曜 6:00～9:00）では出演者を一新し、“働く子育て世代”のユージ氏と吉田明世氏を新パーソナリティに起用しました。また、平日夕方には、生活者の目線にこだわったニュース&情報番組として、新番組『News Sapiens』（月～木曜 20:00～20:50）をスタートし、山際壽一氏（人類学者）、辻田真佐憲氏（評論家・近現代史研究者）、中野信子氏（認知神経科学者）といった各界で活躍する論客を出演者に迎えております。さらに、2018年8月から隔月で放送してきた世界的な作家・村上春樹氏がディスクジョッキーをつとめる『村上RADIO』を毎月1回の放送（毎月最終日曜日 19:00～19:55）に増枠し、村上氏自身によるユニークな選曲テーマで、文学ファンのみならず音楽ファンをも魅了し続けています。

これらのレギュラー番組に加え、当期上期においては“マンスリーキャンペーン”を積極的に実施しています。4月には、東京で新生活を始めたリスナーを応援する「東京ラジオ」を実施、ハイライトとして、当社レギュラー番組出演者のリリー・フランキー氏のオリジナル脚本による東京を舞台にしたコミカルなドラマを放送しました。6月には「RADIO VACATION-TOKYO CITY POP-」と題し、80年代感覚を象徴するイラストレーター永井博氏の描き下ろしによるビジュアルをキーに、世界で注目が高まっている日本のシティ・ポップを各番組を横断して1ヵ月間集中的に放送いたしました。7月、8月には東京オリンピック・パラリンピックに合わせて代表選手を音楽で応援する「CHEER UP! STATION」を、9月には「聴く防災訓練」として防災情報を積極的に発信する取り組みを行いました。

また、従来からの継続番組を含め、日々の放送においては、社会的関心事の取り上げを強化し、嘘・建前のない心から伝えるトークを徹底するとともに、生活者の悩みに寄り添う企画を推し進めました。10代をターゲットとした人気番組『SCHOOL OF LOCK!』（月～金曜 22:00～23:55）では、社会問題として顕在化してきた“ヤングケアラー”の問題を特集し、特別番組『ハザードランプを探して～コロナ禍の貧困「ただ、生きていてもいいですか？」』（7月11日(日) 19:00～19:55）では、正面から貧困問題に取り組みしました。一方、ワイド番組を中心に、コロナ禍でひとり大型連休を過ごすリスナーを集めたオンライン交流会や、リモート飲み会を積極的に実施するなど、放送を超えてリスナーとつながる取り組みを行いました。

さらに、ブランドプロミスである“Life Time Audio 80.0”をより具体的に象徴する企画も実施しています。従来4月22日の「アースデイ」に合わせ、ジャパンエフエムネットワーク（JFN）加盟全国38局で実施してきた「アースコンシャスライブ」に代えて、当期から「Life Time Audio」＝一生モノの音楽体験を提供する特別番組に一新。人は14歳の時に聴いた音楽でその後の音楽の好みが形成されるとも言われていることから、山下達郎、福山雅治、草野マサムネ、あいみょん、Official髭男dismをはじめ様々

なアーティストに「14歳の時に聴いていた（好きだった）音楽」について語ってもらう特別番組『Life Time Audio ～My First Music「14歳のプレイリスト」』（4月22日(木) 19:00～21:00)を放送しました。10月からはアーティスト・文化人・アスリートなど様々な人物の人生に影響を与えた楽曲を紹介する『Life Time Audio～人生のプレイリスト～』（月～金曜 14:55～15:00)を編成し、リスナーの人生に寄り添う音楽を探す拠点番組としていきます。

また、7月には、ファンコミュニティ業界のリーディングカンパニーであるクオン(株)との連動により、会員制の公式ファンコミュニティ「LisCom」をスタートさせました。当社の番組や番組提供クライアントの「ファン」を育成し、コミュニティでの会員の発言をAI分析することで、番組提供クライアントへのマーケティング支援も行う機能を有しており、番組提供とのパッケージ販売による事業化を可能とするサービスに育成することを目指しております。

これらの取り組みの結果、4月の聴取率調査では、当社のコアターゲットである「男女18～49歳」において単独トップを獲得し、6月調査は同率2位となりましたが、9月調査では同率トップとなり、加えて「男女12～59歳」で単独トップ、「男女12～69歳」でも同率トップを獲得しました。また、「20代」「30代」「40代」「50代」の各年代それぞれでもトップとなり、前年から幅広いリスナーに支持される放送局を目指し編成改革を推進してきたことが結実しはじめています。

以上のような活動を展開した結果、当中間連結会計期間における当社グループの放送事業収入は56億8千6百万円（前年同期比2.4%増）となりました。

当社は、FM放送事業者の枠を超えて、“オーディオコンテンツ事業者”となることを経営戦略として掲げており、その第一歩として、関連会社(株)ジャパンエフエムネットワークと共に、前年7月、音声コンテンツプラットフォーム「AuDee（オーディー）」を立ち上げました。AuDeeでは、FM番組との連携によるコンテンツに加え、FM番組の枠を超えたインターネットならではのオリジナルコンテンツまで、700以上のコンテンツを提供しており、順調にユーザーを増やしております。4月には月間アクティブユーザー数（MAU）が160万人を超え、話題のコンテンツも数多く生まれれており、当社の広告主に対してもFM番組とは異なる新たな広告展開の手法を提供する事例が増加しております。その結果、当期上期においては「AuDee」より生み出される収益が増加しつつあり、今後、当社の収益を支える事業に成長させて参ります。

「AuDee」を核としたDX推進は、当社のデータマーケティング戦略にも変革をもたらしています。従来、当社を含む既存マスメディアは、「広告効果の実証」の面でインターネット広告に遅れをとっているといわれておりましたが、当社では、「AuDee」及び「radiko」ユーザーの膨大な聴取データ、並びに当社WEBサイト等へのアクセスデータを日々蓄積するカスタマーデータプラットフォーム（CDP）を独自に構築し、外部の販売データ等と突合することにより、提供社の広告出稿効果をデータで可視化できる広告効果測定基盤の開発に取り組み、当期上期より運用を開始しました。これにより、番組の聴取状況と提供社の商品の購買率の相関関係等、多様なデータを提供社や広告会社に示すことが可能となります。特に、全国ネット番組にお

いては、JFN加盟各局の聴取データを集約することにより、より精度の高いデータを提供することが可能となり、ネットワークセールスの活性化への貢献が期待されます。今後も、測定基盤の精度向上・機能拡張を含め、様々な新しい技術・手法に取り組むことにより、当社のデータマーケティング戦略を推進し、広告媒体としての価値向上に努めてまいります。

<企画・制作事業活動>

新型コロナウイルスの感染拡大は当期も止まることなく、エンタテインメント業界は前期から引き続き大きなダメージを受けています。緊急事態宣言の下、オリンピック・パラリンピックも無観客開催となり、当社が参画を予定していた夏の大型イベントの多くは中止措置となりました。

そのような状況下ではありましたが、WEBによる配信コンサートの実施、企業向けのインナーイベントのプロデュース、回復しつつある舞台系の興行への参画等に積極的に取り組み、また、コロナ禍での巣籠り需要が奏功した映画コンテンツの2次使用料収入の増加の影響もあり、企画・制作事業の売上高は7千7百万円（前年同期比100.0%増）となりました。

<インフォメーションプロバイダー事業活動>

連結子会社ジグノシステムジャパン(株)では、主力のモバイル端末向けコンテンツ事業において、所謂ガラケー向け公式サイトへの閉鎖、通信キャリアのアプリ取り放題サービスへのコンテンツ提供での配分収入の減少、新型コロナウイルスの感染拡大によるキャラクターライセンス商品の実店舗での販売減少等の要因により、期首より減収基調で推移しました。これに対し、企業向けの大型システム開発案件の受託、SNSの人気キャラクターを起用したカジュアルゲームの強化等の新たなゲーム戦略、LINEスタンプの海外展開等の施策により巻き返しを図りましたが、当期上期においては未だ収益体質の回復には至りませんでした。さらに、今期より適用が開始された「収益認識に関わる会計基準」（企業会計基準第29号）及び同「適用指針」（企業会計基準適用指針第30号）の規定により、従来の売上の一部が営業費用との相殺により減額表示される影響が加わり、インフォメーションプロバイダー事業の売上高は9億2千5百万円（前年同期比36.3%減）となりました。

<その他の事業活動>

TOKYO FM 少年合唱団は、新型コロナウイルス感染症対策を徹底、団員の安全を確保しながら、新国立劇場のオペラ「カルメン」（7月）、東京二期会「魔笛」（宮本亜門演出・リンツ州立歌劇場共同制作・9月）に出演する等の活動を行いました。

しかし、その他の事業活動全体では、前年6月まで2店舗あったレストランの閉店による影響に加え、同年9月の賃貸用不動産売却による不動産賃貸収入の大幅減少等により、売上高は4千2百万円（前年同期比57.6%減）に留まりました。

なお、上記のとおり前期中の不動産売却により不動産賃貸による収入が大幅に減少しているため、前期まで別掲していた賃貸事業活動を当中間連結会計年度よりその他の事業活動に含めております。

中間連結貸借対照表

(2021年9月30日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産	14,074,500	流 動 負 債	3,229,172
現金及び預金	11,666,048	支払手形及び買掛金	884,729
受取手形及び売掛金	2,174,733	一年内返済予定の長期借入金	206,000
たな卸資産	65,012	未払金及び未払費用	759,124
その他	239,063	未払法人税等	151,239
貸倒引当金	△70,357	賞与引当金	215,292
		役員賞与引当金	10,000
		関係会社事業損失引当金	679,733
		その他	323,051
固 定 資 産	16,052,154	固 定 負 債	3,482,139
有 形 固 定 資 産	6,704,056	長期借入金	707,000
建物及び構築物	7,108,101	長期未払金	324,600
機械装置及び車輛運搬具	2,313,813	役員退職慰労引当金	18,116
工具器具及び備品	2,962,330	退職給付に係る負債	141,189
土地	3,639,421	長期預り金	108,549
建設仮勘定	2,200	繰延税金負債	671,487
減価償却累計額	△9,321,809	関係会社事業損失引当金	1,511,195
無 形 固 定 資 産	116,729	負 債 合 計	6,711,311
ソフトウェア	95,622	純 資 産 の 部	
その他	21,107	株 主 資 本	21,679,440
投資その他の資産	9,231,368	資本金	1,335,000
投資有価証券	3,916,640	資本剰余金	942,323
関係会社株式	3,726,033	利益剰余金	19,477,982
長期性預金	1,000,000	自己株式	△75,865
長期貸付金	35,309	その他の包括利益累計額	1,333,791
破産更生債権	43,217	その他有価証券評価差額金	1,276,631
長期前払費用	40,596	退職給付に係る調整累計額	57,159
退職給付に係る資産	83,744	非支配株主持分	402,112
繰延税金資産	106,739		
その他	567,325	純 資 産 合 計	23,415,343
貸倒引当金	△288,236	負 債 純 資 産 合 計	30,126,655
資 産 合 計	30,126,655		

中間連結損益計算書

(2021年4月1日から
2021年9月30日まで)

(単位：千円)

<p>売 上 高</p> <p>売 上 原 価</p> <p>売 上 総 利 益</p> <p>販 売 費 及 び 一 般 管 理 費</p> <p>営 業 利 益</p> <p>営 業 外 収 益</p> <p>受 取 利 息</p> <p>受 取 配 当 金</p> <p>持 分 法 投 資 利 益</p> <p>助 成 金 収 入</p> <p>経 営 指 導 料</p> <p>そ の 他</p> <p>営 業 外 費 用</p> <p>支 払 利 息</p> <p>そ の 他</p> <p>経 常 利 益</p> <p>特 別 利 益</p> <p>関 係 会 社 清 算 益</p> <p>固 定 資 産 受 贈 益</p> <p>税 金 等 調 整 前 中 間 純 利 益</p> <p>法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税</p> <p>法 人 税 等 調 整 額</p> <p>中 間 純 利 益</p> <p>非 支 配 株 主 に 帰 属 する 中 間 純 利 益</p> <p>親 会 社 株 主 に 帰 属 する</p> <p>中 間 純 利 益</p>		<p>6,731,529</p> <p>3,943,754</p> <p>2,787,774</p> <p>2,360,058</p> <p>427,716</p> <p>1,567</p> <p>35,068</p> <p>84,377</p> <p>6,941</p> <p>17,372</p> <p>6,126</p> <p>151,453</p> <p>10,384</p> <p>1,935</p> <p>12,320</p> <p>566,850</p> <p>20,405</p> <p>4,929</p> <p>25,334</p> <p>592,184</p> <p>163,048</p> <p>6,884</p> <p>169,933</p> <p>422,251</p> <p>13,458</p> <p>408,793</p>
---	--	---

中間連結株主資本等変動計算書

(2021年4月1日から
2021年9月30日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当 期 首 残 高	1,335,000	942,323	19,150,189	△75,865	21,351,646
当 中 間 期 変 動 額					
剰余金の配当			△81,000		△81,000
親会社株主に帰属する 中間純利益			408,793		408,793
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)					
当中間期変動額合計	—	—	327,793	—	327,793
当 中 間 期 末 残 高	1,335,000	942,323	19,477,982	△75,865	21,679,440

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括 利益累計額合計		
当 期 首 残 高	1,091,914	62,390	1,154,305	393,225	22,899,177
当 中 間 期 変 動 額					
剰余金の配当					△81,000
親会社株主に帰属する 中間純利益					408,793
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)	184,716	△5,230	179,486	8,887	188,373
当中間期変動額合計	184,716	△5,230	179,486	8,887	516,166
当 中 間 期 末 残 高	1,276,631	57,159	1,333,791	402,112	23,415,343

中間貸借対照表

(2021年9月30日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産	9,599,840	流 動 負 債	2,860,095
現金及び預金	7,879,811	買掛金	791,468
売掛金	1,718,843	一年内返済予定の長期借入金	200,000
商品	2,198	未払金	216,736
貯蔵品	5,186	未払費用	354,975
前払費用	39,264	未払法人税等	105,015
その他	24,248	未払消費税等	24,546
貸倒引当金	△69,712	賞与引当金	137,531
		役員賞与引当金	10,000
		関係会社事業損失引当金	878,782
		その他	141,039
固 定 資 産	18,578,663	固 定 負 債	2,505,357
有 形 固 定 資 産	6,512,981	長期借入金	600,000
建物	6,320,548	長期未払金	324,600
構築物	532,621	繰延税金負債	486,279
機械及び装置	1,974,439	預り保証金	90,345
車輛及び運搬具	20,754	退職給付引当金	28,101
工具器具及び備品	2,835,381	関係会社事業損失引当金	976,031
土地	3,630,900		
建設仮勘定	2,200	負 債 合 計	5,365,453
減価償却累計額	△8,803,864	純 資 産 の 部	
無 形 固 定 資 産	78,539	株 主 資 本	21,538,114
商標権	1,933	資本金	1,335,000
ソフトウェア	65,075	資本剰余金	935,000
その他	11,530	資本準備金	935,000
投資その他の資産	11,987,143	利 益 剰 余 金	19,268,114
投資有価証券	3,891,058	利益準備金	134,740
関係会社株式	6,883,516	その他利益剰余金	19,133,374
長期性預金	1,000,000	別途積立金	5,000,000
長期貸付金	24,450	繰越利益剰余金	14,133,374
破産更生債権等	4,935,772	評価・換算差額等	1,274,935
長期前払費用	19,967	その他有価証券評価差額金	1,274,935
差入保証金	68,664		
その他	333,646	純 資 産 合 計	22,813,050
貸倒引当金	△5,169,932	負 債 純 資 産 合 計	28,178,504
資 産 合 計	28,178,504		

中間損益計算書

(2021年4月1日から
2021年9月30日まで)

(単位：千円)

<p>売 上 高</p> <p>放送事業収入</p> <p>企画事業収入</p> <p>その他の事業収入</p>	<p>5,039,323</p> <p>77,704</p> <p>37,269</p>	<p>5,154,297</p>
<p>売 上 原 価</p> <p>放送事業費</p> <p>企画事業費</p> <p>その他の事業費</p>	<p>3,074,567</p> <p>71,412</p> <p>6,839</p>	<p>3,152,819</p>
<p>売 上 総 利 益</p> <p>販売費及び一般管理費</p>		<p>2,001,477</p> <p>1,709,326</p>
<p>営 業 利 益</p> <p>営 業 外 収 益</p> <p>受 取 利 息</p> <p>受 取 配 当 金</p> <p>経 営 指 導 料</p> <p>そ の 他</p>	<p>1,540</p> <p>155,571</p> <p>33,756</p> <p>4,762</p>	<p>292,150</p> <p>195,630</p>
<p>営 業 外 費 用</p> <p>支 払 利 息</p> <p>そ の 他</p>	<p>10,250</p> <p>2,125</p>	<p>12,376</p>
<p>経 常 利 益</p> <p>特 別 利 益</p> <p>固 定 資 産 受 贈 益</p>	<p></p> <p>4,929</p>	<p>475,405</p> <p>4,929</p>
<p>税 引 前 中 間 純 利 益</p> <p>法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税</p> <p>法 人 税 等 調 整 額</p>	<p>118,902</p> <p>△858</p>	<p>480,334</p> <p>118,044</p>
<p>中 間 純 利 益</p>		<p>362,289</p>

中間株主資本等変動計算書

(2021年4月1日から
2021年9月30日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本						
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利 益 剰 余 金		
		資本準備金	資本剰余金 合 計		配当積立金	その他利益剰余金	放送設備 更新積立金
当 期 首 残 高	1,335,000	935,000	935,000	134,740	2,210,000	5,080,000	14,800,000
当 中 間 期 変 動 額							
剰余金の配当							
配当積立金の取崩					△2,210,000		
放送設備更新積立金の取崩						△5,080,000	
別途積立金の取崩							△9,800,000
中間純利益							
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)							
当中間期変動額合計	—	—	—	—	—	—	—
当 中 間 期 末 残 高	1,335,000	935,000	935,000	134,740	—	—	5,000,000

	株主資本				評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金			株主資本 合計	その 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	評価・換算 差額等合計	
	その他利益 剰余金	繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計				
当 期 首 残 高	△3,237,915	18,852,084	18,986,824	21,256,824	1,090,752	1,090,752	22,347,577
当 中 間 期 変 動 額							
剰余金の配当	△81,000	△81,000	△81,000	△81,000			△81,000
配当積立金の取崩	2,210,000	—	—	—			—
放送設備更新積立金の取崩	5,080,000	—	—	—			—
別途積立金の取崩	9,800,000	—	—	—			—
中間純利益	362,289	362,289	362,289	362,289			362,289
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)					184,183	184,183	184,183
当中間期変動額合計	17,371,289	281,289	281,289	281,289	184,183	184,183	465,473
当 中 間 期 末 残 高	14,133,374	19,133,374	19,268,114	21,538,114	1,274,935	1,274,935	22,813,050

第57期中間配当金支払いに関する 取締役会決議

(2021年11月25日)

当社定款第47条の規定に基づき、2021年9月30日の株主名簿に記載又は記録された最終の株主又は登録株式質権者に対し、次のとおり中間配当金を支払う。

記

- | | |
|--------------------------|-------------|
| 1. 中間配当金 | 1株につき60円00銭 |
| 2. 支払い請求権の効力発生日ならびに支払開始日 | 2021年12月7日 |

役員

代表取締役会長	唐島夏生
代表取締役社長	黒坂修
取締役	小川聡
取締役	村上光
取締役	東村正和
取締役	小林哲
取締役相談役	西川守
取締役	前田伸
取締役	北島元治
取締役	高山見和
取締役	山田清志
取締役	杉山恒太郎
常勤監査役	大黒明夫
監査役	黒田則公
監査役	英一

(2021年9月30日現在)